

コレクション展III

特集 磯崎新「還元」シリーズ

1月4日(木)～5月6日(月・振休)

新収蔵した磯崎新の「還元」シリーズをはじめ、開化絵に描かれた擬洋風建築など、建築をキーワードにコレクションを紹介する。



磯崎新《北九州市立美術館》1974年

コレクション展I

特集 アートシーン ー'80s

ゲスト展示: guest room 009 瀧本光國 -水-  
5月18日(土)～8月25日(日)

70年代終わりから80年代にかけて欧米を中心に盛り上がりを見せたアートムーブメントを当館のコレクションを通じて紹介する。



菊畑茂久馬《月光 一》  
1986年 当館蔵



瀧本光國《雲煙VI》  
2011年 作家蔵

コレクション展II

特集 彫刻家のデッサン  
—創作の手がかり

11月23日(土・祝)～2025年2月2日(日)

彫刻家による素描や版画作品を通して、立体造形に至るまでの思考のプロセスや創造の根源に触れる。



青木野枝《水天 1》2007年 当館蔵

コレクション展III

特集 海外に渡った画家たち

2025年2月8日(土)～5月18日(日)

諸外国に渡り新しい芸術に触れ、自己の表現を探索し開花させた日本人画家たちに焦点をあて軌跡をたどる。



高橋秀《大いなる期待》1977年 当館蔵

企画展

4月 足立美術館所蔵 横山大観展

4月6日(土)～5月19日(日)

近現代日本画のコレクションで知られる足立美術館が所蔵する、近代日本画の巨匠・横山大観の作品50点を展示。初期の《無我》、朦朧体の傑作《曳船》、円熟期の大作《紅葉》などの名作は必見。

横山大観《紅葉》1931年 足立美術館蔵



4月 北九州芸術祭総合美術展

12部門(洋画・彫刻・書道・写真・陶芸・水彩画・染織・日本画・水墨画・表装・帆船模型・茶道)

5月 北九州で文化活動をされている方々の作品を展示。

※部門により展示期間が異なります。

6月 4月2日(火)～28日(日) アネックス:写真・陶芸・水彩画・帆船模型・茶道 / 黒崎市民ギャラリー:染織・日本画・水墨画・表装

5月28日(火)～6月2日(日) 本館企画展示室:書道

6月18日(火)～23日(日) 本館企画展示室、アネックス:洋画・彫刻

11月 第79回県展 11月20日(水)～24日(日)

日本画・洋画・彫刻・書・写真・工芸・デザインの7部門を展示。

11月 第58回 北九書の祭典

11月28日(木)～12月1日(日)

7月 津和野町立安野光雅美術館コレクション  
安野先生のふしぎな学校

7月6日(土)～8月25日(日)

絵本をはじめ本の装丁や挿絵など幅広い分野で活躍を続けた、画家・安野光雅。独自の世界観で美しく繊細に描かれた作品は国内外で人気を得て高く評価された。ユーモアとふしぎにあふれた安野光雅の世界に迫る。



安野光雅「ふしぎな学校」『はじめてであうすうがくの絵本1』より 1982年 ©空想工房 画像提供:津和野町立安野光雅美術館

9月 北九州市立美術館開館50周年記念  
あの時、この場所で。  
—コレクションの半世紀—

9月7日(土)～11月10日(日)

2024年11月3日、開館から50年を迎える北九州市立美術館。開館記念に購入された《マネとマネ夫人像》をはじめとする、約8千点の多彩なコレクションから作品を厳選して展示し、美術館の50年を振り返る。

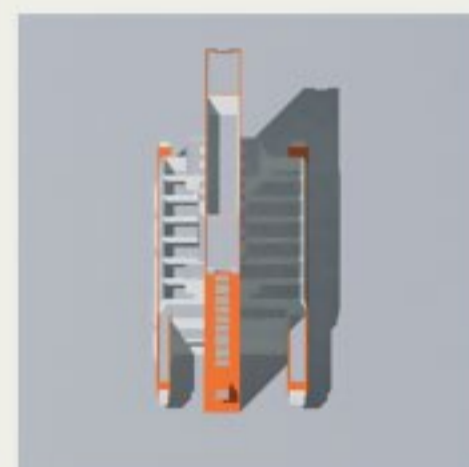


エドガー・ドガ《マネとマネ夫人像》1868-69年 当館蔵

2025 1月 磯崎新の原点  
九州における1960-70年代の仕事

2025年1月4日(土)～3月16日(日)

磯崎新が四島司(元・福岡シティ銀行頭取)に依頼されて設計した福岡相互銀行の建築群を中心に、磯崎が1960年代から1970年代に大分、福岡などで手がけた建築や、四島コレクションを紹介する。



磯崎新《Reduction OFFICE-I(Bank)》1983年 当館蔵 ©Estate of Arata Isozaki

北九州市立美術館

Kitakyushu Municipal Museum of Art

〒804-0024北九州市戸畑区西郷ヶ谷町21-1  
TEL093-882-7777 FAX 093-861-0959

北九州市立美術館黒崎市民ギャラリー

〒806-0021北九州市八幡西区黒崎3-15-3  
コムシティ3階(JR黒崎駅ビル横)  
TEL093-644-5206 FAX093-644-5207



北九州市立美術館 本館までのご案内

■北九州空港(エアポートバス40分)→平和通り(徒歩1分)→小倉駅入口バス停(西鉄バス30分)→美術館本館 ■福岡市C(九州自動車道26分)→八幡IC(北九州都市高速道路14分)→山崎ランプ(車で8分)→美術館本館  
■JR博多駅(新幹線20分)→JR小倉駅(徒歩5分)→小倉駅入口(西鉄バス30分)→美術館本館(JR快速1時間30分)→伊予野原(西鉄バス25分)→美術館本館  
■JR快速1時間30分→スペースワールド駅(タクシー10分)→美術館本館  
■西鉄天神高速バスターミナル(西鉄高速バス15分)→1時間20分→七条バス停(西鉄バス6分)→美術館本館

観覧料

- コレクション展
  - 一般 300(240)円
  - 高大生 200(160)円
  - 小中生 100(80)円
- 企画展 展覧会によって異なります。

※1)内は20名以上の団体料金。  
※障害者手帳を提示の方とその同伴者1名(身体障害者手帳に付いては車椅子が1～4名の乗車に限りは無料。北九州中、下関市、福岡市、熊本県、鹿児島県にお住まいで、85歳以上の方は割引料金が適用した証明書を提示して観覧料90%。

開館時間 9:30～17:30(入館は17:00まで)

休館日 毎週月曜日(ただし月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館)。

年末年始

駐車場 無料駐車場約210台(大型バス駐車場・要事前連絡)



交通案内(本館) 西鉄バス・市内各地より「七条」で下車。「七条(戸畑方面)」(八幡東通沿線)から7M番(西鉄黒崎門前)に乗り、「北九州市立美術館」で下車(所要6分)。  
■JR小倉駅(在来線・新幹線)より「小倉駅入口」(JR小倉駅からモノレールに沿って行き、小倉駅前交差点を渡って左、徒歩5分)から西鉄バス7M番(黒崎方面)に乗り、「北九州市立美術館」で下車(所要30分)。  
■JR戸畑駅より「戸畑駅」から西鉄バス7M番(黒崎方面)に乗り、「北九州市立美術館」で下車(所要25分)。  
■JRスペースワールド駅・JR枝光駅 タクシー(所要10分)。  
■黒崎 北九州都市高速道路・山崎ランプより車で5分。

Information

美術館友の会・美術館パートナーズ・ミュージアムショップ・カフェ

美術館友の会

美術館友の会問合せ先:北九州市立美術館内 友の会事務局  
TEL093-882-7777 FAX093-861-0959

会員種別	年会費(円)	観覧料特典		
		コレクション展	企画展	美術祭主催
一般	2,000円	無料	当日料金の半額	
ペア	3,600円	無料	当日料金の半額	
特別【個人】	10,000円	無料	無料	
特別【法人】 会員証2枚送呈	30,000円	会員証1枚につき 同伴者1名も無料		

※年会費(10名以上の入会の方が1人1名も上記金額の半額)

■その他特典 友の会会報や展覧会案内など送付  
展覧会図録の送呈・割引 ※一部図録を除く  
その他特典あり。詳細は友の会事務局までお問合せください。

美術館パートナーズ

美術館とともに、「地域の美術の振興」や「美術教育を通じた次世代育成」に取り組んでいただくパートナーを募集しています。

年会費:100,000円【法人・個人】

特典

- 招待券を送呈(コレクション展・企画展 各30枚 ※招待券の一部を図録に変更可)
- 展覧会の開会式・内覧会にご招待

ミュージアムショップ(本館1階)

オリジナルグッズや所蔵品の関連グッズ、会期中の限定グッズ、美術図書、北九州ゆかりの商品などを取り揃えております。どなたでもご利用いただけますので、ご来館の記念やお土産にぜひご利用ください。



カフェミューゼ(本館2階)

お食事を楽しみながら、大窓からは瀬戸と市街を一望できます。美術鑑賞のあと、ゆっくりと流れるくつろぎの時間をお過ごしください。  
10:30～17:30【L.O. 17:00】(ランチ11:30～【L.O. 15:00】)  
定休日:美術館休館日  
TEL093-616-9777 <https://www.cafemusee.net>



# 50th Anniversary

北九州市立美術館  
開館50周年

Kitakyushu Municipal Museum of Art

開館50周年

北九州市立美術館  
展覧会スケジュール

2024.4 - 2025.3

## Exhibition Schedule 2024



撮影：大森洋行

開館50周年にあたり

北九州市立美術館館長 後小路雅弘

北九州市立美術館は1974年秋に開館、西日本の公立美術館の先駆けとして活動を続け、今年には50周年の節目を迎えます。

そのユニークな外観から「丘の上の双眼鏡」の愛称で親しまれてきた当館は、現代日本を代表する建築家、磯崎新（1931-2022）の設計によって作られました。その独創性は、建物にとどまりません。日本の美術館として初めて市民ボランティア制度を導入し、市民生活に密着したリビング・ミュージアムを理念として掲げました。また草間彌生など日本の現代美術の紹介、国際的な最新の美術動向をとらえた収集、地元ゆかりの美術家たちの発掘と郷土の美術史の構築、多様な教育普及活動など、日本の美術館のなかでも先駆的な役割を果たしてきました。

21世紀に入って20年余りが過ぎ、開館当初からは、社会も大きく変化し、価値観も多様化しています。地球環境の問題、高度情報化社会の出現、超高齢化社会の進展、パンデミック、民族対立など、世界的な、あるいは地球規模での課題にわたしたちは直面しています。そうした中で、社会における美術館の役割もまた変わらざるを得ません。

美術館が地域社会の中でなにを求められているのか、なにができるのかを問いながら、次の50年へ向けて第一歩を踏み出し、より社会に関われ、社会とともにある美術館へ、今後も模索と挑戦を続けていきたいと思っています。

北九州市立美術館  
Kitakyushu Municipal Museum of Art